

令和5年度

第39号

曹洞宗中国管区 教化センターだより

人びとの声に心耳を澄まし、社会とともに歩む



発行所 曹洞宗中国管区教化（禅）センター

〒683-0802 鳥取県米子市東福原 1-1-22 ウエストビル 402 号室
TEL:0859-31-5161 FAX:0859-31-5163
HP <http://kyouka-chugoku.com>

表紙写真：岡山県 洞松寺

印刷 / 富士印刷(有)
TEL.0859-72-0315

曹洞宗管長 石附 周行

今、私たちは多くの困難と不安に直面し、その生き方が問われています。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、多くの尊い命が失われ、人びとは深い 混乱の中にいます。国際紛争や内戦、貧困・差別・格差・いじめ・命を奪う事件などの社会問題、近年頻発する自然災害・地球環境の変動などは、私たちに生存の危機をもたらしています。

一 仏両祖のみ教えに生きる私たちは、どのような生き方を目指せば良いのでしょうか。

お釈迦さまは智慧と慈悲をもって生きることを示されました。智慧とは万物に生かされている生命の真理に気づく力です。慈悲とは限りないいつくしみの心をもって人びとの苦しみを除き安楽に導くことです。この時、私たちはさまざまな立場を認め合いながら、寛容になれるのです。

五 統 監 挨 拶



新年度にあたり御挨拶を申し上げます。管区内諸老師におかれましては常日頃より「中国管区教化センター」各事業運営に、御支援御協力いただき心よりお礼申し上げます。

本年は、「中国管区教化センター」が開設され五十周年を迎えることとなりました。この慶祝の年を迎えるには、管区内の宗侶の皆様への御援助によるものと深く感謝申し上げます。又、本年に至るには、センター事業に協力、参加活動して頂い

にゆたかにそなわれりといえども、いまだ修せざるにはあられず」と示され、み教えを、ていねいに日々の生活の中に生かしていくことをお諭しです。

いよいよ明年、大本山總持寺開山太祖瑩山紹瑾禪師七〇〇回大遠忌が奉修されます。この遭い難きご法縁を感謝しともどもにご信心をさらに深めていただくことを願ってやみません。

令和五年 布教教化方針

曹洞宗の布教教化は、一仏両祖のみ教えを実践する中で、信仰の生活から生まれる深い喜びと安らぎを願い、その実現を目指すものです。

本年度の布教教化方針は、管長告諭の「世界中の人びとが誰一人取り残されることなく、安らかに暮らせるよう、祈り、念じ、皆ともに菩薩行を進めてまいりましょう」との言葉を受けて、これまで推進してきた「禅の実践」「一仏両祖への帰依」「菩薩行の実践」と共に、「菩薩行の実践としてのSDGs（エスディージーズ）への取り組み」を推進することといたします。

多くの宗侶の皆様への、教化に対する熱意の継続によるものと感銘しております。

昭和四十八年「中国・四国管区教化センター」として広島市「禅昌寺」御山内に事務所が開設され、昭和五十三年尾道市「天寧寺」御山内に事務所が移転、昭和五十七年「中国管区教化センター」として独立し現在に至ります。

五十年前は、鉄道や道路も現在のようない利便性は無く、多くの時間と労力が必要だったと拝察します。印刷物も、ろ紙に鉄筆で書き、謄写版でわら半紙に印刷をする時代でした。現在に至るまで、その時代時代の問題に向かい、知恵を出し合い、時代に対応した方法で、檀信徒の教化活動を続けてこられた功績に心より敬服いたします。

宗門においては長い間「人権・平和・環境」のスローガンのもと、さまざまな取り組みがなされてきました。これらは貧困や差別、環境や平和の問題を包括的に理解し、連携して取り組もうとするSDGsと、理念を共有するものです。世界中の人びととともに、次世代の「いのち」を守ることを考え、身近な生活を振り返り自分が出来ることに取り組んでまいりましょう。

現代社会では、宗教のありかたが根底から問われています。いまこそ、私たちは我が心を振り返り、人びとに歩み寄り、小さな声、声なき声に耳を澄ませて、社会とともに歩んでまいりましょう。

その基軸となる指針として、以下の項目を定めます。

一、禅の実践をすすめます。私たちは、寺院の内外を問わず、さまざまな機会において坐禅の実践をすすめます。より多くの方が坐禅に親しめるよう、いす坐禅をはじめ、インターネットを活用した坐禅会や動画の配信等を通して、坐禅の普及につとめます。

不安で落ち着かない社会の中にあっても、身と息と心を調える坐禅を中心とした「禅の生き方の実践」が、智慧と慈悲を育み、確かな人生の基軸となることを人びとに伝えひろめます。

泉龍寺 住職

三島 道秀

二、一仏両祖を敬い、おとなえの普及につとめます。私たちは、日々「南無釈迦牟尼仏」「南無高祖承陽大師道元禪師」「南無太祖常済大師瑩山禪師」とおとなえし、そのみ教えを学び、日々の行いに生かしていくことの大切さを伝えていきます。

三、「修証義」「四大綱領」に基づく菩薩行の実践をすすめます。私たちは、本宗の教義である「修証義」「四大綱領」に基づき、布施・愛語・利行・同事の四摂法に代表される菩薩行の実践をすすめます。

四、人と人とのつながりを大切に、全ての人が救われる関係づくりを指します。私たちは、寺院を場とした教化活動にとどまらず、積極的に地域社会に働きかけることで、人びとの悲しみや苦悩に学び、寄り添い、支え合う関係を築けるようにつとめます。

※SDGs (Sustainable Development Goals) は「持続可能な開発目標」と訳され、二〇一五年の国連サミットで加盟一九三カ国の全会一致で採択された「貧困や飢餓の解消」「平和的社会的実現」などに関連する十七の課題を、統一的・包括的に解決していくこととする国際目標です。



令和4年度 事業報告

4	5・6	教化センター連絡協議会	宗務庁 (オンライン)
4	12	中国管区運営協議会	米子市 ワシントンホテルプラザ (管区事業)
4	13	前期推進委員会	米子市 ワシントンホテルプラザよりオンライン併用で開催 令和3年度事業報告 令和4年度事業計画 (案) 他
5	16	センター布教師協議会	教化センターよりオンライン開催 布教論並びに教化方針伝達他
5	19	教化資料等企画制作委員会	教化センターよりオンライン開催 配信法話原稿の点検・校正
6	13~14	管区役員人権啓発研修会	米子市 ワシントンホテルプラザ ○講義Ⅰ「SDGsの基礎知識～私たちの生活に生かせる思考方法～」 (株)山陰合同銀行調査役 井上 光悦氏 ○講義Ⅱ「高等特別支援学校について」 鳥取県立皆生養護学校校長 足立 一穂氏 ○講義Ⅲ「宗門におけるSDGs啓発について」 宗務庁国際課課長 安藤道隆 老師 (管区事業)
6	14~15	教化指導員研修会	米子市 ワシントンホテルプラザよりオンライン併用で開催 講師◎曹洞宗総合研究センター常任研究員 関水博道老師 【現代人に対する布教教化を考える ～坐禅会・オンライン教化活動・教区SNS～】 ◎長島と鳥取を結ぶ会代表 荒井 玲子氏 【鳥取県のハンセン病について】 ◎(株)BEANS専務取締役 遠藤 尚子氏 【SDGsの視点で考える 誰一人取り残さない世界のために】 受講者 現地：19名 オンライン：33名 合計52名
8	24	教化資料等企画制作委員会	教化センターよりオンライン開催 配信法話原稿の点検・校正
8	26	布教師養成基礎講座第1回	松江市 鳥根県第二宗務所よりオンライン併用で開催 講師◎曹洞宗特派布教師 野津雅史老師 【修証義に聞くⅡ】 模範実演
10	11	婦人会中国管区研修会 (婦人会事業)	山口県宗務所に開催 収録し各婦人会にDVD配布 講師◎すーふーどらいふ ままや 主宰 白木 美和氏 【おばあちゃんの知恵暮らしとSDGs】 参加者37名
10	22	第2回 Let's try ZEN ～坐禅をしてみませんか！～	浜田市 龍雲寺 講師◎ネルケ無方老師 【遠路はるばるニッポンへ 青い目が見たZEN】 参加者18名
10	26	後期推進委員会	教化センターよりオンライン開催 令和4年度前期事業報告・令和5年度事業計画 他
11	10	禅をさく会	広島県府中市・府中市文化センター 講師◎俳優 一般社団法人「Get in touch」代表 東ちづる氏 【浅く広くゆるくつながろう～Let's まぜこぜ～】 参加者400名
11	21・22	布教師養成基礎講座第2回	松江市 鳥根県第二宗務所よりオンライン併用で開催 講師◎曹洞宗特派布教師 野津雅史老師 法話実演・講評 参加者12名
11	30	配信版禅をさく会収録	広島県福山市・リーデンローズ 講師◎フリーアナウンサー 中司弘子氏・エレクトーン奏者 広原かおり氏 トークコンサート「今日のこころ私の心」
2	9~10	布教講習会・協議会	米子市 ワシントンホテルプラザよりオンライン併用で開催 講義Ⅰ研修動画視聴 【布教教化方針を自らの事として・コロナ禍における教化・】 講義Ⅱ 福島県長秀院住職 渡辺祥文老師 【現代社会に布教教化を模索するーウィズコロナ、アフターコロナの時代と切り結ぶー】 人権学習 米子市山陰労災病院 認知症看護認定看護師 須田明美氏 演 題：「認知症の人の尊厳と家族支援について考えてみる」 布教実演3名 受講者 現地：62名 オンライン：27名 合計89名
2	20	布教師養成基礎講座第3回	松江市 鳥根県第二宗務所よりオンライン併用で開催 講師◎曹洞宗特派布教師 野津雅史老師 法話再実演・全体講評 参加者14名
2	25	第3回 Let's try ZEN ～坐禅をしてみませんか！～	広島市 聖光寺 講師◎真言宗須磨寺派寺務長 小池陽人老師 【心豊かに生きる】 参加者39名
3	27	教化センター連絡協議会	宗務庁 (オンライン)
3	28	教化資料等企画制作委員会	教化センターよりオンライン開催 配信法話原稿の点検・校正

○ 配信法話
【今日のこころ 私のこころ】 ※毎週土曜日更新

文化講座
◎ 松江講座 (山陰中央新報社文化センター講座)「心安らぐ写経入門」 毎月1回開催
◎ 米子講座 (Chukai コムコムスクエア講座)「やさしい坐禅と写経入門」 毎月1回開催

管区長退任挨拶

覚園寺住職

澤田 宗博



新緑の爽やかな季節を迎え、管区内諸老師におかれましては、益々ご健勝にて四衆ご接化ご精進のことと拝察いたします。

令和三、四年の二年間、酒井晃道老師から管区長の重責を引き継ぎ、コロナ禍の中、教化センターの役員、各宗務所のご助力をいただき、曲りなりにも職責を果たすことができましたこと、心より厚くお礼申し上げます。

さて、コロナ禍と言われるようになってから四年目になりましたが、マスク着脱も各自の判断となり、感染法上の位置付けも五類へと変更になりました。しかし、感染者の増減の波を繰り返しながら未だ収束に至らず「ウィズ・コロナ」の生活と向き合っている状態は変わりません。この三年間により葬儀・法事の縮小、減少や寺院の恒期法要ができない等により収入の減少、檀信徒とのコミュニケーション不足となり、地域によっては寺院の存亡に関わる実情があるように仄聞します。

最近「仏教抹殺」(鶴飼秀徳著)を読みました。明治政府により明治元年に「神仏分離令」が発令されましたが、この命令を拡大解釈したり一部過激な勢力に扇動された破壊行動により、全国的に廃仏毀釈運動となり九万ヶ寺あった寺院が、

わずか数年間に半分の四万五千ヶ寺まで減少し、たくさんさんの国宝も破壊されました。その後、復興できたところもありましたが、経済的基盤の弱い寺院は素より世俗的な生活三昧に浸っていた住職の寺院は、社会や檀信徒から「社会にとって不要な寺院」と見做され再建出来なかつたということでした。

このような破壊の事件がありました。明治以降、檀家制度の下で比較的安定に維持できていました宗教法人は、今は住職後継者の不在、檀家減少が叫ばれ宗教を取り巻く環境が大きく変化、更にコロナ禍の影響で寺院消滅が現実化している中「社会にとって必要な寺院」であるために、私たち僧侶は檀信徒の皆さんから「何が求められ、何が大切か」を真剣に考え、各寺院の実態に合った布教教化・行持実践活動がこれまで以上に問われていると思います。

服部宗務総長の所信にも「宗務行政のスリム化」「社会貢献による宗門の活性化、寺院の復興」「寺院地域を基盤とする教化と社会での実践活動」があげられています。まさに管区教化センターの役割と指導が求められ、その存在が問われていると思います。幸いにも本年は教化センター設置五十周年にあたります。これを機に教化センターと各宗務所は車の両輪の如く協調して各寺院のこれからの教化活動の一助となる活躍を期待しております。

最後になりましたが、新管区長老師には、望山禪師七百回大遠忌予修法要をはじめ、布教教化の一層のご指導を懇願し法身堅固ご自愛いただきますよう祈念いたします。

末筆ながら管区内各寺院様の山門隆昌を願ひ退任の挨拶といたします。

管区長就任挨拶

鳥根県第二宗務所所長

岩田 泰成



覺苑に花開く好時節を迎えました。管区内諸老師におかれましては、益々ご健勝にて四衆ご接化の事と拝察申し上げます。

この度、昨年十二月の宗務所長改選に伴い鳥取県宗務所より管区事務を引き継ぎ、前管区長澤田宗博老師の後任として不肖私が管区長の重責を担うこととなりました。教化センター役員、各宗務所役員及び管区内諸老師の皆様のご法愛とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

この三年間は、コロナ禍の影響で管区、教化センター、各宗務所共に行事を中止、規模縮小にての開催、また諸会合、研修会にオンラインを取り入れられたこととされています。

ただ、これが常態化していけば対面による参加者が減少していくのではないかと危惧しているところであり、各ご寺院におかれても、苦心を重

ねながら山門行事を務めてこられたかと存じます。特に慶事においては長年計画を立ててこられたにも拘わらず、二年三年と延期を余儀なくされたご寺院も多くあったかと存じます。更には仏事の簡略化、寺離れなどの不安感も叫ばれてきました。一日も早く日常の生活に戻ることを願っております。

さて、令和六年に、大本山總持寺開山望山紹瑾禪師七百回大遠忌を迎えるのに先立ち、令和五年十月二十六日に大本山永平寺南澤道人猊下ご親修による予修法要を出雲市民会館において厳修致します。またとない法縁に恵まれた機会でもありますので、まだ予断は許さない状況下ではありますが、多数の方に参加して頂けるよう検討を重ねていく所であり、併せて永平寺とのお縁も深い京都清水寺 森 清範貫主のご法話と四年毎に開催の管区集會も予定しております。教化センター、各宗務所役員、教区長老師、教区護持会会長の皆様には遠路ご足労お掛け致しますが、ご協力頂きますようお願い致します。

管区として大きな行事が重なりませんが、万全を尽くして取り組んでいく考えでありますので、ご支援頂きますこと重ねてお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

岡山県宗務所だより

令和四年度事業報告
教化主事 中山 尚三

《宗務所婦人会》五月二十六日に宗務所婦人会総会・研修会を宗務所にて開催し、岡山県宗務所教化主事から『道元禅師御絵伝に学ぶ』と題し、道元禅師のご生涯について「建断記」を紐解き研鑽を深めました。《現職研修会》六月八日に一日の日程で、高梁市文化交流館にて開催し、宗門僧侶六十七名のご参集のもと、長崎県皓台寺住職、齊藤芳寛老師をお招きして学道用心集をご提唱いただきました。

《寺族会研修会》六月三十日に宗務所にて開催し、岡山県宗務所の樋口三城人権主事から『それぞれの出发点』と題し、人権学習で部落解放運動のご講話いただきました。

《岡山県梅花流講習会》十月十九日に高梁市文化交流館にて開催し、コロナ前までは奉詠大会として講壇に登壇していましたが、近年はコロナ禍で中止を余儀なくされました。しかし、講習会だけでも開催すべきという信念の元を実施し、島根県明元寺住職森山祐光一級師範から、実のあるご指導を賜りました。

《檀信徒地方研修会》十一月十日、四年前の西日本豪雨から復興を成し遂げた倉敷市マービーふれあいセンターにて三年ぶりに大本山總持寺副貫首盛田正孝老師から、『岐路に立つ寺院、いま私達にできること』と題しての講演をいただきました。「あなたはいつ仏教徒になりましたか」と聴衆に問いかけ「本来自身が信仰する宗教は選択の自由があり、自身で選ばば、信念も生まれ責任も生じてくる。」とお話になりました。菩提寺の将来も自分たちの肩にかかっているという考えを改めて感じさせられる尊い時間となりました。

鳥取県宗務所だより

令和四年度宗務所教化活動について
教化主事 高橋 和教

昨年十二月から前教化主事老師より任を引き継ぎ、手探り状態ながら業務を進めております。さて、令和四年度においてもコロナ感染症が終息すること無く各行事開催に影響を及ぼし、当宗務所行事も本山研修会・特派布教と開催中止、梅花流特派研修会も多く教区で中止となりました。しかしながら十月二十日には現職研修会・寺族研修会を宗侶七二名・寺族三四名の参加を得て開催し、曹洞宗総合研究センター講師、館盛寛行師より「曹洞宗における信心に関する諸問題」を演題に、未来の住職塾塾長、松本紹主師より「現代の仏教と僧侶の可能性」を演題にそれぞれ講演をいただきました。また人権学習会を併催し鳥取短期大学幼児教育保育学科教授、國本真吾氏より「愛と共感の教育の世界」障害のある人の教育と糸賀一雄の思想から」と題し知的障害児との関わりについて研修致しました。十一月十日には檀信徒地方研修会を開催し、東北大学学長、千葉公慈師をお招きして「楽しい集い」仏さまの生活のススメ」を演題に講演いただきました。他では令和五年三月五日に梅花流奉詠大会を開催者各位のご尽力により三年ぶりに開催することができました。令和四年度の行事を企画運営されました前宗務所の皆様におかれましてはコロナ禍で大変苦勞された事と存じます。培われた知識と経験を引き継ぎ今後の活動に生かしたく思います。

令和五年度において本山研修会は中止となりましたが、その他の行事は開催する運びで検討しております。まだまだ予断は許されない状況ですが、以前の賑やかな状況に戻る事を願い活動してまいります。

広島県宗務所だより

宗務所行事について
教化主事 野上 厚徳

令和四年度は、新型コロナワクチン接種が進み、全国的に各種行事開催が緩和され、宗務所行事も徐々に進行することが出来ました。予定された特派巡回布教・梅花流特派巡回講習・梅花流広島県奉詠大会は生憎中止となりましたが、秋以降先ずは檀信徒地方研修会を教化センター主催「禅をさく会」として、講師にタレントの東ちづる氏をお招きして、席を一つずつ空けて開催。三十年以上ボランティア活動に励まれているからこそその重みのある言葉に、一同感服しながら拝聴致しました。

また、檀信徒団参を再開することが出来、初めて両大本山以外、それも遠路青森県恐山に拝登。直前に偶然NHK「ブラタモリ」で恐山の様子が放映されたこともあり、予定より増えて七十八名のご参加をいただきました。

現職研修会では、長崎市皓台寺専門僧堂の齊藤芳寛堂長老師にご提唱を賜り研鑽を深めました。さて、令和五年度は特派巡回布教・梅花流特派巡回講習・梅花流広島県奉詠大会も開催予定。特に十月は、先ず檀信徒地方研修会を行い、大本山總持寺副貫首盛田正孝老師にお越し頂き講演を賜ります。次に管区集会では太祖登山禪師七〇〇回大遠忌予修法要、そして最後は總持寺様に記念参拝と御本山に佛縁を深める月となります。

現職研修会は、宗報でお馴染みの、雨宮眞也法律事務所 弁護士、雨宮眞歩先生によるご講義を予定。

コロナ禍により中止せざるを得なかった教化活動を取り戻せる一年になることを念じ、取り組んで参ります。

島根県第一宗務所だより

令和三年、令和四年度事業について
教化主事 岡村 充浩

令和四年の事業は、当初は全て行う方向で計画をいたしました。しかしながらコロナ禍を鑑みて中止もありうるということになりました。会議等に関しては、すべて宗務所等に集まり実施いたしました。

宗侶、寺族に関する事業については、現職研修会は第三教区寺院にて九月十六日に一日開催として愛媛県瑞瑞寺後堂門原信典老師をお迎えして「授戒・葬送のお勤め」について二講義をいただきました。また、曹洞宗総合研究センター講師館盛寛行師をお迎えして「信心に関する諸問題」について一講義をいただきました。宗務所寺族研修会、第六教区寺院にて十一月十日に一日開催とし、「精進料理」について広島県普門寺副住職吉村昇洋師をお迎えして一講義をいただきました。また、「曹洞宗における信心に関する諸問題」について総研センター常任研究員関水博道師をお迎えして一講義をいただきました。

島根県第一宗務所、第二宗務所合同の布教講習会は、浜田千疊苑にて二月十六日に一日開催とし、山口県立大学国際文化学部アジア文化論研究室鈴木隆泰先生をお迎えして、「葬式仏教正当論」の一講義、「お釈迦様の仏教」の一講義をいただきました。

檀信徒関係である梅花流特派講習会、檀信徒地方研修会、梅花流奉詠大会についてはコロナ感染拡大を鑑み宗務所で中止を決定いたしました。特派布教講習会については、中止となりました。

令和五年度の事業については、全ての事業をこの時期にできる形を考察、工夫し開催を出来るよう準備を進めております。

山口県宗務所だより

コロナ禍を乗り越えて
所長 西村 宏司

昨年十二月より山口県宗務所所長を拝命致しました西村です。宜しくお願いたしました。

三年を超えるコロナ禍において様々な事業行持が中止、規模縮小など余儀なくされてまいりましたが、本年五月より第五類となり社会状況や生活スタイルが徐々に変化を迎えております。

山口県宗務所では昨年度より大本山總持寺参拝や長野県方面への人権現地研修、現職研修会、梅花流創立七十周年記念山口県大会など様々な事業において対面での開催を始めております。当然コロナ禍前とは違い感染対策やリモートの併用など、皆様に安心して参加していただける環境をできる限り整えての開催でした。今年度の宗務所主催事業についても感染対策や可能であればリモートも併用しつつ出来るだけ多くの皆様を足運んでいただきその場の雰囲気、空気を感じていただけるよう計画してまいります。既に予定されているものとして寺族会総会、婦人会総会、護持会総会などの会議、梅花流山口県大会については太祖常済大師登山禪師七百回大遠忌予修法要と併せ山口県檀信徒大会として計画、秋には大本山永平寺参拝を予定しております。

コロナ禍のみならずウクライナとロシア間の戦争を起因とした不安定な世界情勢によって安全性が脅かされ物価の高騰を招いております。宗教者、仏教徒として寺檀共に安心した信仰生活を送れるよう「人権・平和・環境」のスローガンのもと、その役割を再認識して曹洞宗教の敷衍に努めてまいります。

島根県第二宗務所だより

宗務所布教教化活動について
教化主事 西古 孝志

コロナ禍三年目も様々な工夫を試みながら行事を行って参りました。

《檀信徒地方研修会》六月二十九日、島根県民会館において、タレント、また「一般社団法人インターネット・ヒューマンライツ協会」代表である、スマイリー・キクチ氏に來県いただき、「突然、僕は殺人犯にされた」命の大切さ、人生の大切さ、あきらめない心」と題した講演をいただきました。

《寺族研修会・現職研修会》両研修会において、藤田一照老師を講師に「坐禅：身心を調えてもって仏道に入るなり」と題し、実際に体を動かしながら共に研修を行いました。寺族研修会では他に、安来市加納美術館 名誉館長 加納佳代子氏を講師に「加藤莞菫の平和への想い」今こそ次代へ」と題した講演をいただきました。また現職研修会では、宗報でも連載されている弁護士雨宮眞歩氏に「寺院経営の重要ポイントとトラブル対策」と題した講演をいただきました。事前にいただいた質問にも答えていただきました。

《宗務所団体参拝研修会》令和三年度に計画し延期になっていた大本山總持寺祖院開創七〇〇年慶讃団参を十月二十五、二十七日に行いました。三年ぶりの団体参拝研修会の開催となり十九名という少人数ではあったが、良い研修旅行となりました。

《梅花流地方奉詠大会》十一月十八日、出雲市市民会館において令和三年度と同様に午前と午後入れ替わり制とし開催しました。二八〇名の参加者のもと、日頃の研鑽の成果を響かせました。

《徒弟研修会》感染症対策の為中止が続いていましたが、三月二十七日、徒弟七名の参加のもと、福山市神勝寺ミュージアムとみろくの里へ行き、楽しく研修を行うことができました。

紙上法話

「牛と人とこの地域と」まち

広島県 萬福寺住職 高橋道英



平成二十五年、お寺の近くに若い夫婦が移住してきました。夫婦は牛を飼い、チーズを作って生活しています。目指すのは自然循環型の酪農です。牛が野山の草を食む。その牛のお乳を人が分けて頂き、それまで荒れていた野山も整備されていく。まさに牛と人と自然とが一体となった暮らしなのです。そして、色々な職業や生き方の人達が、互いに支え合う暮らしを願っています。

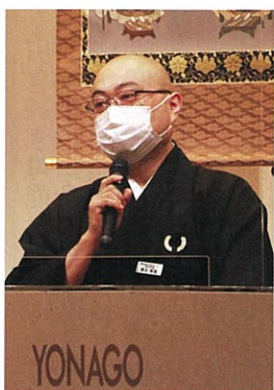
そんな暮らしのできる場所を探し求め、たどり着いたのが福島のいわき市でした。夫婦は、地域の人達の協力も得ながら、その広い土地を牧場として整備していきました。夢に向かって一歩ずつ歩んでおりました。しかし、その暮らしは平成二十三年三月十一日を境に一変しました。東日本大震災。東京電力福島第一原子力発電所の事故により漏れ出した放射能、その土地での牛の放牧はできなくなったのです。飼料を使えば酪農を続けることも可能でした。しかし「安心して食べることができない物を作りたい」という思いで、新たな土地を探し始めます。そして様々なご縁で決まった新しい移住先が庄原市口和町だったのです。地域の人達は若い夫婦と牛たちのために土地を準備し、家を準備し、快く迎えてくれました。それから十年、夫婦

は三人の子どもを授かり、今では地域にとって欠かすことのできない存在となっています。

登山禅師は「たとい難値難遇の事有るも、必ず和合和睦の思いを生ずべし」と示されています。それはどんな苦難に出会っても、和合和睦の思いを心がけるべきという意味です。東日本大震災は、この夫婦にとって大きな苦難でした。又、私達にとっても、とても大きな悲しい出来事でした。それでも多くの人が手をとりあい、一つとなり、相和することにより、復興への道を一歩ずつ進むことができています。原発事故以来「フクシマ」というだけで、多くの人が誹謗中傷を受け、心ない言葉をむけられてきました。そんな時に地域の人達は快く迎えました。これこそ登山禅師の思いの実践なのです。分かち合い、支え合い、思いを重ね合って、人と人との繋がりを深めていく、これを仏教では「同事」といいます。そして、この夫婦の理想とする、自然と私たち人間とが共に生きる、これこそが大いなる同事の生き方なのです。

教化指導員研修会

研修会に参加して



関水 博道 老師

コロナ禍の為最近の研修会はリモートでの受講ばかりでしたが、この度は久しぶりに現地で拝聴させていただきました。

まず、曹洞宗総合研究センター常任研究員の関水博道老師より『現代人に対する布教化を考える』(坐禅会・オンライン教化活動・教区SNS)の講義をいただきました。

不特定多数を対象にした企画「朝活禅」では、マーケティング的な考え方に加え、広報の手段や、参加者が自然な形で佛縁を結ぶ工夫等、参考になる事柄が多くありました。印象深かったのは、人から選ばれる大切さと難しさを意識して



患者だ けでなく支 援者に対し て適切な 差別があ ったのか、 改めて知る

「僧侶目線」から「消費者目線」に変えて考える事です。価値観の多様な現代社会で布教をする上でこの点は重要だと感じました。そして、同時に注意点として、「選んでもらう為に世間へ迎合していいか」「世間の関心と僧侶が伝えたい事にギャップがある」等を述べられ、気軽に寺院に足を運べる雰囲気作りや平易な教えを用いながらも、あくまでそれを入力として、さらに一歩を進めて「禅」の奥深さを伝えていくべき事をご教示下さいました。

続いて人権学習は、長島と鳥取を結ぶ会代表の荒井玲子氏より『鳥取県のハンセン病について』です。冒頭からその穏やかな語り



鳥取県 海蔵寺住職 安好 達憲

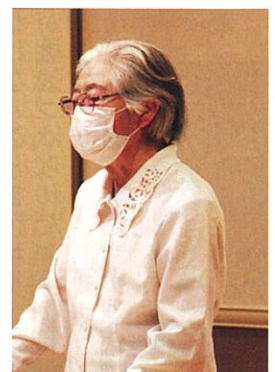


遠藤 尚子 氏

実態に胸が詰まりました。また、長島愛生園の納骨堂のお話では「もういいかい。骨になってもまあだだよ」という言葉と共に、亡くなった後すら故郷に帰れない現実を教えてくださいました。

この問題に限らず、人に差別の心を引き起こし増長させる原因の一つに無知、無明があると思えます。コロナ禍の昨今にも差別的な出来事があった事を考えると、差別の問題は、現在そして未来の為に過去に学び続ける必要がある事を強く感じました。

最後の講義『SDGsの視点で考える誰一人取り残さない世界の為に』は株式会社BEANS専務取締役の遠藤尚子氏からです「誰一人取り残さない」とは素晴らしい考えですが、我が事とするには大き過ぎる理念かもしれないと私



荒井 玲子 氏

自身以前から感じていました。この講義では、私達が普段自坊で行っている事も教区や地域での活動等も、SDGsの視点で見れば、それらの行いの多くが十七の目標の内いずれかに当てはまる事を知りました。そして、各目標は少しずつ関係している為、どれか一つを行うだけでも他の目標に関わっていく。つまり、目の前の縁を結んでいけば、その縁は縦横に広がって「誰一人」に向かつて繋がっていくのです。

令和四年度布教化方針にある「身近な生活を振り返り自分が出来ることを考え歩みを進める」がまさにその事を示していました。この度の研修は大変有意義でした。拝聴したご講義の一つ一つを今後私自身が行っていく布教に役立てていきたいと思えます。

センター布教協議会・講習会



鳥取県 瑞仙寺徒弟 長曾 靖史

布教講習会に 参加して



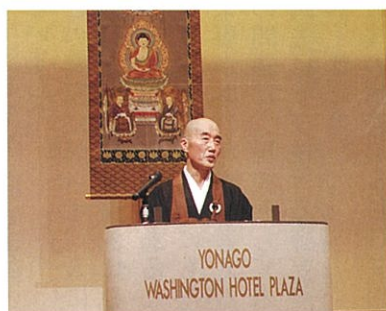
本年の布教講習会は、二年ぶりに現地での開催となりました。オンラインのモニター参加も引き続き可能となっております。こちらは参加させて頂きました。二日間に渡り、大変勉強になるお話を拝聴致しました。

二日目に行われた人権学習においては、山陰労災病院より看護師の須田明美さんをお招きし、認知症について学ばせて頂きました。須田さんは、認知症看護認定看護師という資格を有し、認知症に関するエキスパートといえる方です。その豊富な臨床体験に根差したお話は示唆に富んでおり、拝聴していた私も、一人の人間として、また僧侶として、認知症について他人事ではなく考えさせられました。



布教実演の様子

「認知症の人の尊厳と家族支援について考えてみる」——演題のなかにもある「尊厳」という言葉は、お話の大きなテーマとなっていたように思われます。歴史を振り返ってみれば、認知症患者の方々の尊厳がなかったことは、残念ながら事実だそうなんです。あえて表現を選ばずに記せば、当時、認知症を患った人は、もはや「人」としてはみなされていないような扱いを受けていることがありました。無論、現在ではそういった偏見は改められています。1990年代に入つた頃から認知症患者の方々の権利擁護に対する動きが活発化し、2000年には「介護保険法」が成立します。近年でも、2019年には「認知症施策推進大綱」が



センター布教師による模範実演

の方々の、人としての尊厳が本當の意味で守られているのかということ、現在でも非常に難しい問題です。法的な問題、あるいは人道的な問題とは別に、もっとシンプルに、認知症の人を前にしたとき、「認知症患者」という単語ではなく、目の前の一人の人間として受け止めることを私たちはできているのかという問いです。

私自身、「認知症」という病気には、それだけで少し怯んでしまうというか、構えてしまうところがあるのを否定できません。私はこの病気に対して、例えば癌のような命の危険を思わせる病とは異なる類の恐ろしさを抱いてしまいます。それは自分という存在そのものを内側から食らい尽くされてしまうかのような、漠然とした恐怖



須田 明美氏

怖です。しかし、この恐怖心こそが、翻せば認知症の方々への差別心であり、認知症についての理解を自ら遠ざけてしまうものだと、須田さんのお話を拝聴して気付かされました。

「認知症になったら『何もわからなくなる』と思っている人がいます。でも、繰り返しますが、そんなことはありません。心は生きています。嫌なことをされれば傷つくし、褒めてもらえばやはり嬉しい。」これは、認知症の当事者である、長谷川和夫さんのお言葉です。人を人たらしめる大切なものである、「感情」が最後まで失われたいことを教わり、私はどこか勇気づけられたような気が致しました。

布教師養成基礎講座



鳥根県第二宗務所 洞光寺徒弟 諏訪 弘史

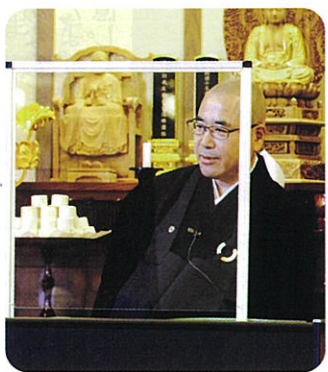
令和四年度布教師養成 基礎講座に参加して

令和四年度中国管区教化センター主催の布教師養成基礎講座に参加させて頂いた。今改めて思うのは参加して良かったという事です。

私がこの講座を受けようと思っただけは、日々の法事やお参りの方々に話す内容が果たして正しく伝わっているのだろうかという思いが生じていたことでした。普段はお檀家様などに法話をしても、それに対する正直な意見が返ってくることは余程のことがない限り、あまりないと思います。そのため今回の講座の中で、正直なフィードバックをいただけることは非常にありがたく、また一



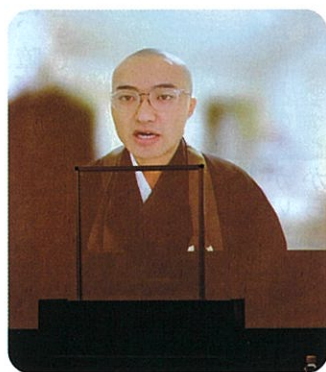
野津 雅史 老師



実演の様子

人では気付かない視点や考え方を学ぶいい機会でもありました。逆に他の法話者の発表を聞く立場では、良いなと思った部分は真似ることができるとし、改善した方がいいなと思った部分はそのまま自分も意識するべきこととなります。

実際には、「寄り添うこと」という題目で法話発表を行いました。内容以前に緊張で早口になり、相手に寄り添うどころか自分のことで精一杯になっていて自分の姿に「これでは全く説得力がない」と痛感する経験になりました。それでもその経験は、私にとって非常に大きな糧になったと思っています。なぜなら一回目のフィードバックを受けて臨んだ二回目の発表では、文章もできるだけ自分が自然に口から出る言葉を残して発表することを意識したため



オンラインでの実演

か、ゆっくりと一言一言を丁寧に話すことができたからです。しかしながらその発表でもフィードバックをもらい、新たな課題が生まりました。こうして少しずついい法話になっていくのだなと実感しました。

私は講義の中で講師の野津雅史老師に「あなたは他人に寄り添うことができると思いますか？」と質問され、「寄り添うことができます」と思っています。と即答しました。すると、「では自分自身に寄り添うことができていると思えますか？」と質問され、少し考え、ハッとしました。自分自身のことまだまだよくわかっていないのに寄り添うことなどできないし、ましてや自分のことより理解が困難な他人に寄り添うことは途方もないくらいに難しいことだと気づかせていただきました。



これからも自分自身の考えや言葉に自分の先入観や思い込みが入っていないかをしっかり確認しながら、一言一言の意味を追究していきます、経験を積んでいきたいと思っています。

またこのような講座が開催されるようであれば、ぜひとも参加をさせて頂きたいと考えております。

指導にあたっていただきました講師の特派布教師・野津雅史老師、中国管区教化センター統監の三島道秀老師、並びに中国管区教化センターの所員の皆様、そして一緒に法話発表した諸先輩方、ありがとうございました。

曹洞宗中国管区教化センター主催
令和4年度

禅をきく会

トークコンサート 今日のごころ私のごころ

曹洞宗中国管区教化センターがお送りしております「今日のごころ私のごころ」平成20年よりラジオ放送として始まり、令和4年度からはインターネットに媒体を移し、放送を続けて参りました。15年にも及ぶ年月の中で、中国管区内宗侶の皆様からご寄稿頂いた法話は750篇以上にのぼります。

今回その中から8篇を選び、フリーアナウンサーの中司弘子氏に朗読を、エレクトーン奏者の広原かおり氏にエレクトーンの演奏をお願いし「トークコンサート 今日のごころ私のごころ」を収録致しました。



収録された動画は、曹洞宗中国管区教化センター YouTubeチャンネルにてアップロードされております。

YouTubeにて「曹洞宗中国管区教化センター」と検索していただくか、下記QRコードを読み取って頂くことでご覧いただけます。是非ご覧頂き、檀信徒の皆様にも御勧め頂ければと存じます。



トークコンサート 今日のごころ私のごころ



今日のごころ、私のごころ
Today's heart, my heart

平成20年よりラジオにて放送しておりました「今日のごころ私のごころ」は、令和4年度より放送媒体をインターネットとテレホン法話に移行いたしました。媒体は変わりましたが、番組内容に変更はありません。引き続きナレーションには、フリーアナウンサーの中司弘子さんをお願いしております。ネット配信は下記サービスよりお聞きいただけます。また、テレホン法話は下記の電話番号にお掛けいただくことで、お聴きいただけます。

「今日のごころ 私のごころ」を檀信徒の皆様にご周知していただき、ご意見・ご感想をお聞かせいただければ幸いです。



Apple



YouTube



Spotify



Google

テレホン
法話

0120-54-0832

(固定電話の方はこちらから)

0859-31-1524

(携帯電話の方はこちらから)

講師

東 ちづる氏

オンラインで
ご参加の方より

禅をきく会



東ちづるさんの講演を見せて頂き、こういう活動をされている方だとは思っていませんでした。驚いたというのが正直な所です。東さんの活動はマイノリティ全般多岐に渡っておられ、お話が進むにつれ、私の知らない現状を知ることにもなりました。こういった活動は、東さんのアイデアや明るさやプロとしての技もあり、とても明るく楽しそうに見えますが、実際準備や普段の活動というのはとても大変なのだろうと思います。本当に三十年という長い年月、



「あの人はなんでちゃんと歩けないの?」とか「なんでこの人は車椅子を使うの?」などと聞かれた事があったことを思い出しました。その時は、色々な病気や障がいがあった、あなたと同じ様な人だけじゃないんだよ。という様な事を答えた様に記憶していますが、その時にジロジロとその方を見て指をさして聞く娘に、怒りや焦りを覚えていたことを思い出したのです。それは、人をジロジロみる事が失礼になる事と同時に、



に、障がいのある方が指をさされて生きてきたらどうに同じことを娘がするとはいけない事だ。という先人観があったからです。別に障がいがあっても、指をさされて生きてこられたかは分からない事だし、子供は興味があれば何でも聞くものです。私自身の障がい者に対する差別意識があったからこそ、「障がい者を指をさしてやたらと見るな」と思っていたのか、とわかりました。確かに東さんの言われる様に、隠されている方、外に出ずにおられる方もいらっしゃるでしょう。なかなか外出も簡単ではない場合もあるかと思えます。そういうことの積み重ねで、私たちが接する機会も少なくどういう対応が良いのかさえ、よく分かっていないんですね。今の社会は、人目にどう映るかは別として、

で、全ての人が個性があり、皆が違う部分があるからと認識し始めていて、それを少しずつですが、受け入れてきています。それを更に、みんながお互いを認め合って理解し合って、自然と困っているなら誰でも手を差し出せる。そんな世の中になっていくべきだろうと思います。東さんが、いつ自分がその立場になるか分からないから活動は辞められない。と仰られていた通り、皆いつ病気や老いにより、健康を損なったり、人の力を借りることになるか分かりません。みながお互いを認め合って、困っている人がいたら助け合っていける事が当たり前の社会になり、東さんの活動が終わる日が来る事が一番良い事なのかもしれないですね。



Let's try ZEN in 龍雲寺

に参加して

島根県よりご参加
野津 咲月 様

私はレッツトライゼンのことを父から勧められて興味を持ち、姉二人と参加させて頂きました。理想以上に有意義な時間を過ごすことができました。私に限らず、参加された誰もがそうであったのではないかと思います。

坐禅会後の講演会では、ネルケ無方老師が今までの経験談を楽しく話してくださいました。何より、人生の意味について考えさせられました。人生の意味とは何か。最後の茶話会で、ネルケ無方



ネルケ無方老師

老師は、人生にはおそらく意味など無く、今をただ生きるのが大切なのだと仰っていたように記憶しています。

私は現役高校生で思春期のなかにいるせいか、心とは何だとか、自分の存在意義は何だとか考えることがよくあります。

そこで、茶話会の場で、死ぬ直前にどんなことを考えられるように生きたいですかという質問をさせて頂きました。曹洞宗中国管区教化センターで統監をされている三島先生は、死に際に、ああ楽しかった、と思えるように生きたいと思っていました。

すかとこの質問をさせて頂きました。死に際に、ああ楽しかった、と思えるように生きたいと思っていました。

老師は、人生にはおそらく意味など無く、今をただ生きるのが大切なのだと仰っていたように記憶しています。

Let's try ZEN in 聖光寺

に参加して

広島県よりご参加
今田 友善 様

今年元旦、聖光寺恒例行事の新年祈禱会終了時、ご住職より「坐禅をしてみませんか」と称して此処聖光寺を会場に体験会が有るとの案内が有り、参列していた私と次男で参加しようと、椅子坐禅での申込みをしました。

以前より私は教区護持会総会、檀信徒地方研修会等で椅子坐禅の時間が設けられ、少しは経験がありました。次男は初めてです。会場で配布された「坐禅のす



講演の様子

め「坐禅のいろは」「いす坐禅の基本」の冊子を詳しく説明され、実施された事で、一つ一つの作法に意味が有る事等々を改めて知ることが出来ました。

坐禅の終盤「パン」という音を聞きました。後方の方が警策を受けておられた事を後の説明で知りました。昨年NHKのテレビ番組「永平寺の四季」で見た、極寒の中、坐禅を組む修行僧の姿を思い出しました。感想文を寄稿するに当り、私なりに「坐禅」について調べる事が出来たのも収穫でした。この坐禅会に参加した次男共々感謝しています。

講演では講師の小池陽人先生のご法話を拝聴しました。東京生まれながら、関西人特有の落語家のような喋り口調で実話をもとにお話下さり聞き入りました。特に「ネガティブケイバビリティ」のくだりは、ポジティブとネガティブについては聞き慣れていましたが「ケイバビリティ」については初めて聞く言葉でした。日頃何事にも

も前向きにポジティブをモットーに生きて来たつもりには思いません。掛けない言葉でした。「消極的能力・消極的受容力・否定的能力」と訳し、その内容をお話されました。また、仏さまの教え「一切皆苦」についてもお話下さいました。この文言には少々理解に苦しみました。宮大工棟梁のお話は土木技術者だった私にも経験があり、なるほどと理解出来ました。茶話会では参加者からの問い掛けにも笑顔で優しく回答をされ嬉しく拝聴しました。私の住む三次市では常会という町内会組織が有り、毎年九月第一日曜日に真言宗岩屋寺ご住職をお迎えして、常会員総出でお参りをします。ご住職に合せて般若心経を三回、十三佛真言、地藏菩薩真言「オンカカカピサンマイソワカ」を百八回唱えます。その後ご住職の法話が



茶話会



坐禅指導 野原 眞承 老師

から親しくなった方と、頂いた昼食の特に美味しかったものなど他愛のないお話もできました。

龍雲寺のご住職のお話で印象に残っているものがあります。一つは、本当に死を感じた時、周りのものは全て美しく見え、全て「光っている光」と「闇っている光」にしか分けられないのだと気づくという話です。私含めおそらく多くの方が色々なものを一つ一つ分類して勝手に評価しがちだと思います。全て美しい光だという話に驚き、感動しました。

二つ目は、考えるということ。は、人間の内、今生きている者にしかできないという話です。死後に、もし意識があるとしても天国にいけば極楽ばかりで何も考える必要が無く、地獄にいけば罰が恐ろしいばかりで何かを考える余裕がないからさうです。考えることは私たちを苦しめますが、同時に幸せにさせるのだと気づくことができました。

レッツトライゼンでの体験と坐禅はどこかで繋がっているのではないかと思います。周りとのご縁



坐禅風景

有ります。やはり小池陽人副住職同様、気持ちの良いお話を聞かせて下さいます。私の母は現在の安芸高田市吉田町に生まれ、近くの浄土真宗本願寺派・元浄寺で幼少の頃から日曜学校等で遊び育ち、嫁いだ先は曹洞宗の檀家でも、母個人はいわゆる安芸門徒でした。昨年は浄土真宗本願寺派布教師・雑賀正晃先生のファンで近隣の布教活動が有れば案内を頂き、時間が許す限り私が送り迎えをして参列させて頂いておりました。九十一歳で亡くなりました。多端な人生だったと思いますが、信心に救われたのではと、五人兄弟・末っ子の私は思っています。宗派は違えど、仏様に手を合わせお参りする信心が大事と教えられています。私も八十歳近くになりましたので、今後は日常で時間に余裕を持ち、この度の坐禅会でお教え頂いた、坐禅の要、三つの「調う」、調身・調息・調心を身につけたいと思います。

を感じることに。今、考え、今を生きたいこと。それらは、心を柔らかくして自分自身を静かに見つめ直した時にできることだと思いません。

今を見つめ懸念に生きてゆくことで人生の意味を私なりに考え、見つけたいと思いました。また、それが後悔のない生き方をするのに必要なことなのだと思えます。今回の体験は、私にとってこれからの大きな第一歩となりました。本当にありがとうございました。



昼食の精進料理

スローライフで 生きましよう

秋晴れの穏やかな天気恵まれ、山口市の禅昌寺様を会場として管区研修会が開催されました。コロナ禍ということで、会場は山口県の方のみの少人数で、岡山県・鳥根県婦人会の方はリモートでご参加していただきました。山口県でもこの二年間研修会を行うことが出来ませんでした。この度は半日という短い時間の中、研修会を行いました。久しぶりの開催はハイブリッド形式で行なわれ、少し緊張した雰囲気の中ビデオ撮影が始まりましたが、スムーズに講演が進みました。



白木 美和氏

講師の白木美和さんはラジオ局のリポーターやアナウンサーを経験さ



れ、現在は山口市仁保に在住。「すろーふーどらいふ ままや」を主宰し、環境や食に関する活動をされています。

講演では「おばあちゃんの知恵 暮らしとSDGs」をテーマに、パワーポイントや野草を刻んで発酵させた酵素ジュース、松葉で作った天然のサイダーなどを実際に見せていただきながら、サステイナブルな社会（暮らし）を実現するための実践方法を沢山お話ししていただきました。地球の生物全て



が共存していくにはまず「循環する」「多様であること」全てに『関係性がある』ことの大切さも教えて頂きました。自然と人は同一であり、私達は自然の恩恵を受け大地や海からの恵みをいただいで生かされているということ、そしていただくだけでなく自然に帰していくこと（自然回帰）が大事だということを子育ての体験を通してお話いただきました。

あつという間の一時間でしたが、講演後は熱心に質問される方もおられて私も含め関心の高さを実感しました。講演の内容は後日DVDが作成されるそうで、当日参加が出来なかった会員の方に向けていただき、おばあちゃん知恵袋が次世代の方へと繋がっていくらと思えました。また事前に、白木さんにご指導



合掌

いただきながら作った天然のみつろうクリームを、研修会の参加者にお渡しする事が出来ました。閉会式では岡山県事務所婦人会様よりオンラインでねぎらいの言葉を送り、無事に研修会を終えることが出来ました。最後に遠路よりお越しいただき事前準備から色々とお力いただきました皆様に御礼申し上げます。

中国管区教化センター ×SDGs 使用済みろうそく回収事業 活動報告

令和4年度より、循環型社会への移行を支援する試みのひとつとして、使用済みろうそく回収を企画いたしました。

鳥取県日南町の特定営利活動法人あかり広場様と久代林業様とで協力し、障がい者就労支援の一環として、林業作業で出た「おがくず」と、「使用済みろうそく」とを再成型し、キャンプなどに使われる着火剤を製造されています。しかしながら、材料となるろうそくが足りず生産量が限定されている状況です。環境にやさしく品質の



良い着火剤は需要が高く、施設利用者の方の工賃にも直結する大事な仕事です。

当教化センターでは活動支援のため、管区内の葬儀社にご協力をお願いし使用済みろうそくの回収をさせていただいております。令和4年度は、延べ22社・1団体の皆様にご賛同いただき、300kg超の使用済みろうそくを寄贈させていただきました。

継続して、幅広くろうそくの提供を募ることで、安定した供給と新たな需要にも対応できるようになると考えます。持続可能な社会を目指し、少しずつ支援の輪を広げていきたいと思います。



各御寺院様におかれましては、趣旨をご理解いただき、使用済みろうそく回収にご協力賜りますれば幸甚に存じます。



尚、使用済みろうそくを送付いただく場合は着払いでお送りくださいませ。



協賛企業・団体

岡山県	倉敷市	株式会社サカ工 様
	岡山市	株式会社東部典礼 様
広島県	呉市	総合センター 様
	広島市	株式会社仏光社 様
	三原市	安芸典礼メモリアルホール 様
山口県	山陽小野田市	こまつ会館 様
鳥取県	米子市	株式会社葬仙 様
	米子市	株式会社ピアベール 様
	米子市	株式会社中海葬儀社 様
	米子市	有限会社祭典秀伊 様
	南部町	南部葬祭 様
	伯耆町	JA鳥取西部 葬祭センター ラシールほうき 様
島根県	津和野町	葬儀斎場さくら会館津和野営業所 様
	奥出雲町	JAしまね虹のホールまごころ 様
	奥出雲町	葬祭センター仁多 様
	松江市	株式会社博愛社 様
		いずも曹洞宗青年会 様

お知らせ

センター布教協議会・講習会

- 日時：令和5年9月14日（木）正午受付
13時開講～15日（金）正午まで
- 場所：島根県松江市 ホテル白鳥
- 講師：神奈川県 東泉寺住職
曹洞宗特派布教師
関水 俊道 老師
- 参加費：14,000円（予定）
- 対象：布教師・宗門僧侶
- 申込先：各宗務所
- お問い合わせ先：教化センター

センター布教師 紹介



山口県 第三七番 安禪寺
住職 **村上 邦明 老師**
玖珂郡和木町和木一六〇一八
電話〇八二七五三一四三三四



広島県 第一四九番 萬福寺
住職 **高橋 道英 老師**
庄原市是松町二七
電話〇八二四一七二〇二九二



岡山県 第四七番 正眼寺
住職 **土本 公祥 老師**
総社市新本五七七七
電話〇八六六一八三一〇〇八一



島根県 第一番 松源寺
住職 **佐瀬 宏洋 老師**
安来市安来町一四四六
電話〇八五四二二二五四八



鳥取県 第一六二番 梅翁寺
住職 **倉瀧 英信 老師**
米子市車尾五七五〇
電話〇八五九一三一四二七五



令和5年度「今日のこころ 私のこころ」配信予定

回数	放送日	縣市町名	寺院名	担当者	タイトル	備考
770	7月1日	鳥取県 鳥取市	うんしょうじ 雲昌寺	きたやま 北山 悟月	やさしい気持ちで	教化指導員
771	7月8日	島根県 松江市	しょうぜんじ 正禅寺	よしなが 吉長 裕教	幸せの海に生きる	教区長
772	7月15日	山口県 周南市	ずいりゅうじ 瑞龍寺	のさか 野坂 直道	誰かのお手本に	教化指導員
773	7月22日	広島県 広島市	かいうんじ 海雲寺	おがわ 小川 彰紀	足元を見ましよう	教化指導員
774	7月29日	山口県 玖珂郡	あんぜんじ 安禅寺	むらかみ 村上 邦明	言葉がくれる勇氣	センター布教師
775	8月5日	鳥取県 米子市	ばいおうじ 梅翁寺	くらたき 倉瀧 英信	一生修行	センター布教師
776	8月12日	島根県 浜田市	るりじ 瑠璃寺	しまだ 島田 建眞	頂きます	
777	8月19日	山口県 下松市	みょうこうじ 妙光寺	やまがた 山縣 洋典	あるお檀家の話	
778	8月26日	岡山県 高梁市	かんせんじ 観泉寺	かなち 金地 宏典	欲求と向き合う	
779	9月2日	鳥取県 米子市	うんりゅうじ 雲龍寺	まかべ 眞壁 太郎	残したい風習	宗務所梅花主事
780	9月9日	広島県 世羅郡	ほうりんじ 鳳林寺	はらだ 原田 良浩	愛語の力	
781	9月16日	山口県 周南市	あんこくじ 安国寺	ほんだ 本多 隆晃	視点を変えてみる	教化指導員
782	9月23日	鳥取県 鳥取市	しょうじゅじ 正壽寺	やまわき 山脇 俊英	真夏に有り難き施し物	
783	9月30日	山口県 山口市	みょうきじ 妙喜寺	いちばら 市原 晃靖	日々の生活の中で	教化指導員
784	10月7日	広島県 庄原市	まんぶくじ 萬福寺	たかはし 高橋 道英	牛と人とこの地域と	センター布教師
785	10月14日	山口県 玖珂郡	あんぜんじ 安禅寺	むらかみ 村上 邦明	与えて、与えられてのひとの繋がり	センター布教師

曹洞宗配信法話

「今日のこころ 私のこころ」

配信法話集 **2022年度版**

《令和4年4月～令和5年3月》 52話収録



ご希望の方は
曹洞宗中国管区教化センターまで
お申し込みください。


令和5年度事業計画

月	日	行 事	備 考
4	24 (月)	中国管区運営協議会(管区事業)	松江市 ホテル白鳥
	25 (水)	前期教化活動推進委員会	松江市 ホテル白鳥
5	19 (金)	第1回教化資料等企画制作委員会	オンライン
		センター布教師協議会	米子市 国際ファミリープラザ
6	14 (水) ~ 14 (木)	婦人会中国管区役員会(婦人会)	松江市 ホテル白鳥
		管区役職人権啓発研修会	
		人権啓発に関する協議会(管区事業)	
7	17 (土)	第4回Let's try ZEN~坐禅をしてみませんか~	矢掛町 洞松寺
		教化指導員研修会	三原市 広島エアポートホテル
8	29 (火)	第2回教化資料等企画制作委員会	山口市 玄濟寺
9	14 (木) ~ 15 (金)	布教師養成基礎講座(第1回目)	松江市 ホテル白鳥
		センター布教協議会・講習会	
10	16 (月)	教化センター後期連絡協議会(宗務庁)	広島市
		後期教化活動推進委員会	
		婦人会中国管区研修会(婦人会)	
11	26 (木)	瑩山禪師700回大遠忌予修法要(管区事業)	出雲市 出雲市民会館
		禅をきく会	米子市 ビッグシップ
12	6 (月)	教化センター開設50周年記念式典	広島市 ANAクラウンプラザホテル
		布教師養成基礎講座(第2回目)	山口市 玄濟寺
1	28 (火) ~ 29 (水)	第3回教化資料等企画制作委員会	安来市 松源寺
		第5回Let's try ZEN~坐禅をしてみませんか~	
2	16 (土)	教化センター報第40号編集会議	教化センター
3	6 (火)	教化活動企画委員会	山口市 玄濟寺
4	29 (木)	布教師養成基礎講座(第3回目)	

教化事業予定

4月~翌年3月(毎週土配信)	配信法話「今日のこころ 私のこころ」	YouTube・Podcast・テレホン法話他
毎月1回	Chukai コムコムスクエア文化講座 「やさしい坐禅と写経入門」	鳥取県米子市
毎月1回	山陰中央新報文化講座 「心安らぐ写経・写仏入門」	島根県松江市
毎月1回	山陰中央新報文化講座 「心安らぐ写経・写仏入門」	島根県出雲市
随 時	SNS・ホームページ更新・動画配信	

センター役職員

	統 監	三島道秀	泉龍寺	〒689-5131 鳥取県日野郡日野町黒坂421	☎(0859)74-0140
	主 監	瀬田啓道	雲光寺	〒683-0225 鳥取県西伯郡南部町御内谷1205	☎(0859)64-3023
	賛 事	井上紀生	常福寺	〒689-5224 鳥取県日野郡日南町多里471-1	☎(0859)84-0310
	賛 事	曾根慎吾	玉雲寺副	〒699-1434 島根県仁多郡奥出雲町佐白404	☎(0854)54-1536

編集後記

管区内ご寺院様には平素より格別なるご高配を賜り心より御礼申し上げます。

本年は東日本大震災より十二年を迎え、十三回忌法要が各地で勤められました。十二年前の三月十一日、ご家族を亡くされた方々に思いを寄せると、当日の事、そしてこれまでどれだけつらい日々を送ってこられたのかと胸が痛みます。その中で地元東北で懸命に復興活動や、防災の為の活動をされている方々に心から敬意を表します。私たちに今出来ることは何か、そして共に生きることを改めて考える年度末年度始めとなりました。

令和三年度までラジオ法話「今日のこころ私のこころ」を放送して参りましたが、令和四年度より、YouTube、Podcast、Spotify等による配信法話「今日のこころ私のこころ」を配信し、多くの方々より反響をいただきありがとうございます。引き続き親しくお聴きいただける配信法話を遂行して参ります。

今年度は、中国管区教化センターが開設されて五十周年を迎えます。諸先輩方が培ってこられた多くの事業を振り返り、喜び合える記念式典となるよう役職員一同、精進致します。

管区内ご寺院様には引き続きご教導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

主監 瀬田啓道 拜